

文献 46

西澤芳男, 永野富美代, 伏木信次, 西澤恭子, 吉岡二三. 大学生球技者外傷障害の治療とリハビリテーションに対する鍼治療の double blind test の検討. 関西臨床スポーツ医・科学研究会誌. 1999; 8: 57-59. 医中誌 web ID 1999147029

1. 目的

ダブルブラインド法を用い、大学生球技スポーツ選手の筋肉・関節痛への鍼治療の有効性を検討する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT) ダブルブラインド

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

球技をクラブ、同好会で実施する大学生 272 名

5. 介入

Arm1: 経穴を用いた鍼治療で、治療中に必要なことのみしか話さない群

Arm2: 経穴を用いた鍼治療で、人生や競技上の悩みなども話し合う群

Arm3: 経穴を用いない鍼治療で、治療中に必要なことのみしか話さない群

Arm4: 経穴を用いない鍼治療で、人生や競技上の悩みなども話し合う群

6. 主なアウトカム評価項目

疼痛程度評価 VAS-P, Face rating scale, 総合 QOL, CPT5Hz

7. 主な結果

経穴の有無による鍼治療において、治療中に最低限の会話を行った群でも痛みの改善はみられたが、様々な会話をした群がさらに疼痛の程度を改善させた。CPT5Hz は鍼治療前後で有意な変化がなかった。

8. 結論

鍼治療の効果は、鍼治療自体の効果ではなく、治療中の鍼灸師との会話による可能性が示された。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

ダブルブラインドテストを用い、1 年間の鍼治療による疼痛の程度を比較検討した研究である。治療の際に会話による心理効果を評価している点で大変興味深い。しかし、本研究では、鍼治療の効果について示されなかったため、鍼灸治療の効果も含まれる点を全て心理的效果であると結論づけた点に疑問が残る。この点を明らかにするためには同様のカウンセリング群並びに、同時間拘束されている群の設定が必要である。スポーツ選手に対する鍼治療の効果を心理的な側面から治療効果について言及する研究は多くはなく今後の研究に期待したい。

11. Abstractor and date

池宗佐知子 2016. 3. 22